様式１

平成２６年度　宇陀市立榛原中学校　自己評価書（教育活動）

学校教育目標	夢を持ち、未来への可能性を創造していく生徒の育成
運営方針	**学校教育目標の実現を目指し、全職員がその任務を深く自覚し、その英知を集結して創意あふれる教育活動を展開する。** ・全教職員の経営参画による学校経営　・生徒の自尊感情の高揚と人権が尊重される学校づくり ・授業の充実、改善を図り、生徒の「確かな学力」の保障　・施設・設備の充実と学校安全の推進 ・家庭や地域との信頼関係の構築及び地域に根ざした特色ある教育の推進
前年度からの課題	**・指導方法の改善に向け、授業研究等を推進する。** **・生徒の自主的な活動を活性化する。** **・保護者・地域などとの連携を密にするための組織を立ち上げる。** **・いじめ・不登校対策、体罰根絶に向けた取組を推進する。**
本年度の重点	**・地域と連携した取組の構築** **・挨拶の日常化と清掃活動の習慣化** **・基礎的基本的な学力の充実** **・生徒会活動、部活動の活性化** **・人権意識の育成**

大項目	中項目	小項目	具体的評価項目	評価指標	評価		成果と課題	課題の改善方策等
Ⅰ教育活動に関するもの	(1)挨拶の日常化と清掃活動の習慣化	①挨拶の日常化	学校内での挨拶の実施状況	・生徒アンケートの結果が９０％となったか。	B	A	●昨年度より続く、全教職員による朝の校門前での立哨指導や、生徒会が行う部活動生徒による「あいさつ運動」などにより「あいさつ」に対する意識は生徒・教職員とも確実に高まっている。 ●清掃時間は、確実に確保できているし、清掃活動も習慣化し、熱心に取り組んでいる。 ●環境委員を中心に用具の管理、点検、補充や補修を定期的に行っている。	○今後は、内面から自主的にあいさつができるよう具体的なあいさつの仕方等を指導する。 ○清掃活動については、清掃場所、指導方法を含め再検討する。また、学期ごとの清掃用具の点検を確実に行う。
			学校外での挨拶の実施状況	・生徒アンケートの結果が７０％となったか。	A			
		②清掃活動の定着	・清掃時間の確保	・清掃時間を週３日以上確保できたか。	A			
			・清掃用具の管理	・生徒活動として、学期ごとの用具点検・補充、補修ができたか。	A			
	(2)基礎的･基本的な学力の充実	①学習指導計画	・指導計画（シラバス）の作成と実施	・各教科のシラバスを作成し、生徒に示したか	A	A	●毎学期ごとにシラバスを作成し、生徒・保護者に示した ●年間計画に基づいた学習指導をほぼ実施することができた。 ●授業の最初に、その時間での学習内容や到達目標を示すことで、生徒の興味・関心の向上につながっていると考えられる。 ▲学習指導の準備等におけるＩＣＴ、活用は十分になされているが、授業中におけるＩＣＴ活用という点では、教科の特性もあるが,まだまだ不十分である ▲教科によって、学習形態に差がある。	○各授業での「ねらい」をより明確に生徒に伝えていくための工夫が必要である。 ○作成したシラバスをより有効活用するため、各教科において、シラバスで示した学習内容を習得定着させるための具体的な取組・方法を随時示していく。 ○ＩＣＴ支援サポータと協力し、ＩＣＴ機器・教材等を活用する時間を積極的にり取り入れ、ＩＣＴ活用について研究・研修機械をさらに充実していく必要がある。 ○各教科におけるＩＣＴを用いて作成した提示資料については、校内サーバーに保存し、教師間での共有を行う。
				・年間計画通りに学習指導を進めることができたか	A			
		②指導方法の工夫改善	・指導方法の工夫・改善	・授業の最初に、その授業での「ねらい」を示したか	A			
				・生徒にとってわかりやすい板書を心がけたか	A			
				・ICT機器・教材、コンテンツ等を活用したか	C			
			・学習形態の工夫・改善	・机間指導で、個別指導を丁寧にしたか	A			
				・グループでの活動を取り入れたか	B			
	(3)生徒会活動、部活動の活性化	①生徒会活動の活性化	・生徒が主体となる活動の計画･実施	・生徒会が中心となるあいさつ運動を毎学期実施することができたか。	A	A	●あいさつ運動は、部活動単位で毎学期意欲的に取り組むことができた。 ●生徒の自主性を育てるため、全校朝礼を生徒主体で行わせ、運営がスムーズに行えるようになった。 ●ケガや事故のないよう生徒に徹底指導をしてきた。特に熱中症対策については、昨年度に引き続きPTAと協力した取り組みができた。 ●年度当初に、最終下校時間の検討をはかり、日没時間にあわせた部活終了時間の設定ができた。 ●本年度も部活動保護者懇談会を開き、部活ごとに運営についての説明、保護者の声を聞く機会を設けた。 ●年々活動が活発になり、県大会等で成果を上げているが、ケガや故障も増えている。	○生徒会活動を定例化し、生徒と共に更に新しい企画を考え、活動の幅を広げていく。 ○ケガの予防等も含め、部活動指導についての職員研修や講習会を持つ。
				・執行部と専門部、部活動が連携委した活動を行うことができたか。	A			
				・生徒会や部活動が地域に貢献する活動を実施することができたか。	B			
		②部活動の活性化	・安全な部活動の実施	・けがや事故、熱中症等に対して適切な対応ができたか。	A			
			・生徒が意欲的に取り組む部活動	・部活内でのいじめや体罰を防止し、楽しめる部活動となったか。	A			
				・部活動の約束をまもり、規則ただしく元気な部活動となったか。	A			
	(4)人権意識の育成	①人権教育の内容点検	・人権教育推進計画の見直し	・県教育委員会の指導方針に基づいた推進計画となったか。	A	A	●昨年度作り直した人権教育推進計画の改訂を行ない、より実態に合うようにした。 ●人権フォーラムは、生徒の要望もあり、昨年度と同じくチャングの演奏に取り組んだ。今年度は昨年度の経験者が中心となり、新しく参加した仲間に教え合う姿も見られた。文化祭での演奏も昨年度を上回るできとなった。 ●人権集会・人権教育講演会を開いたりして人権意識の向上に一定の成果が見られたと思う。 ●昨年度実施できなかった研究授業を３学年で取り組んだ。１年生については公開し、研究討議を行った。 ●『人推のつぶやき』を発行し、人権感覚の向上をめざした。 ▲人権教育の研修会等への職員の参加を勧めることが不充分だった。 ▲人推部会を研修部と教材部に分けて、活動の充実を図ろうとしたが、教材部会が機能しきれなかった。	○引き続き研修会等の連絡を行い、学校として参加体制がとれないか企画委員会等で検討する。 ○何を教材化するのか具体的に絞り込む。
			・人権意識の向上	・確かな人権意識を身につけさせる取組ができたか。	A			
		②人権に関する取組の推進	・人権フォーラムや学習会の組織化	・新たな活動を創造し、組織化することができたか。	B			
				・生徒たちにとって魅力ある活動となったか。	A			

様式２

平成２６年度　宇陀市立榛原中学校　自己評価書（学校経営）

大項目	中項目	小項目	具体的評価項目	評価指標	評価		成果と課題	課題の改善方策等
Ⅱ学校経営に関するもの	(1)組織運営	①学校経営目標・方針	・学校経営目標の明確化	・明確な学校目標や経営方針を示したか	A	A	●一昨年度重点化した学校目標、経営方針及びグランドデザインを継続し、年度当初に職員に示し、確認することができた。今後は、さらに目標を具体的に示し、取組の焦点化を図る。	○学校目標の具体化をさらに進め、各分掌の取組につなげるとともに、学校評価の項目と連動させながら取組を進める。
				・学校経営の方針を教職員に周知したか	A			
		②校務分掌等の連携	・校務分掌の適正化	・仕事量や業務の関連を考慮した校務分掌とすることができたか	B		●学校目標の具現化に向けた校務分掌を目指し、特定の教員に仕事が集中しないような体制を試みたが、まだまだ十分ではない。	○人事異動等によるリーダーの交代が予想されるが、現在の体制を維持し効果的な学校運営ができるよう、各教職員の職能開発に努める。
			・教職員の適正配置と運営への参加意識	・教職員の経験や能力、特性を考慮した分掌配置となっていたか	B		●主任等の役職が交代し組織が新しくなったが、昨年度の体制を引き継ぎ、順調に進めることができた。	
		③会議の運営	・企画委員会の改善	・企画委員会で熟議することにより、職員会議の改善につながったか	A			○各分掌会義や委員会の開催を定例化し、企画委員会を中心に連携体制をつくる。
			・各種会議の設定と定例化	・いじめ対策・不登校対策特別委員会を定期的に開催できたか	A		●各特別委員会を機能させ、生徒の状況を把握するとともに、市の適応指導教室とも連携することができた。「いじめ対策基本方針」を作成した。	
	(2)危機管理	①危機管理体制の整備	・危機管理マニュアルの徹底	・研修を持ち、危機管理の共通理解ができたか	A	A	●不審者対応、東南海地震対応等の研修を行い、危機管理意識を高めることができた。	○さらに教職員の危機管理能力を高めるための研修や訓練を計画・実施する。
			・生徒指導体制の構築	・生徒指導マニュアルの見直しを行い、改善できたか	A		●年度当初、校則等の見直しを行い、指導の一貫性について確認した。	○教員の指導力向上を目指し、各自が生徒指導に関わる研修（いじめ・体罰防止、不登校支援等）に参加する。
		②安全指導の徹底	・全校体制での取組の実施	・避難訓練を複数回行えたか	B		●避難訓練は１回の実施であったが、消防署の指導の下、適切に実施できた。	
			・日常的な取組の実施	・日常的に安全意識を高めるよう取り組んだか	A		●学期初めやテスト期間中にはＰＴＡの協力も得て立哨指導をするなど、登下校の安全に力を入れた。	○校舎の耐震化に向け、安全な学校生活を送れるよう指導に努める。
		③家庭や関係機関との連携	・家庭との連携	・ＰＴＡや地域と連携し、取組を進めることができたか	A		●ＰＴＡや自治会の協力を得て、交通安全の看板やカーブミラーの設置、自転車の歩道通行の許可申請等の取組を行い、成果を得ることができた。	○駅前の開発整備に伴う、自転車通行や通学路の変更等、登下校の安全の確保に向け、ＰＴＡや地域との連携をさらに密にする。
			・関係機関との連携	・関係機関との連携を強化することができたか	A			
	(3)保健管理	①保健指導	・学校保健安全計画の立案	・学校保健安全計画は適切に作成されているか	A	A	●計画に基づいて実施することができた。	○今後も、生徒の心身の課題に応じた指導を進めていく。
			・保健指導の充実	・生徒の健康状態や心身の課題に応じた指導ができたか	A			
		②心のケアや健康相談体制の整備	・学校カウンセラーの活用	・カウンセラーと連携して生徒の指導にあたったか	A		●カウンセラーと教員が連携した取組を継続し、カウンセラー自身の家庭訪問等の取組により不登校傾向の改善に努めた。	○カウンセラー、養護教諭、人権教育担当、不登校支援担当等が連携して取組に当たる。 ○市の適応指導教室との連携も密にする。
			・健康相談活動の充実	・養護教諭を中心とした健康相談活動を進めたか	A		●養護教諭を中心にして生徒の心身の健康相談に努めた。	
		③関係機関との連携	・学校医や保健センターとの連携	・学校医や保健センターと連携した取組ができたか	B		●保健センターと連携した、「赤ちゃんとのふれあい体験（２年）」や歯と口の健康に関する取組（ポスター、標語）に取り組んだ。	○学校保健委員会の開催に向け準備を進める。
	(4)保護者・地域との連携	①学校情報の発信	・Webページの活用	・学校行事や学校からの情報をwebページを通じて、積極的に発信できたか	A	B	●学校のWebページを定期的に更新した。特に、写真については、保護者のページのフォトギャラリーをスマートホンでも見られるようにした。	
			・情報発信システムの活用	・メール発信システムを活用して、保護者への情報提供を効果的に行ったか	A		●紙媒体での案内文の配付と並行して、メールやWebページによる情報発信を行うなどの取組を継続することができた。	
		②学校(授業)公開	・オープンスクールの活性化	・オープンスクールの実施方法を工夫することができたか	B		●オープンスクールにおいて、ＰＴＡ研修部の企画による「人権講座」を開催できた。授業参観については３学期は実施できなかったが、年3回の実施は継続している。	○オープンスクールへの参加者を増やす取組を模索する。
			・授業参観の実施	・授業参観を年3回実施できたか	A			○授業参観への参加者を増やすための方策を検討する。
		③家庭・地域との連携	・保護者・地域住民の学校教育への参加	・保護者や地域の力を学校教育に生かす機会がつくれたか	B		●学校の環境整備については、地域の方の協力を得て改善できたが、ゲストテイーチャーの活用が十分ではなかった。	○保護者や地域の力をより生かすため地域コミュニティー部の活性化と学校の情報提供に努める。
				・校務分掌に地域コミュニティー部を設け、計画的な取組ができたか	B		●校務分掌には位置づけたが十分に運用できなかった。	
			・生徒の地域活動への参加	・生徒が主体的に取り組む地域貢献活動ができたか	B		●地域貢献は、吹奏楽部等一部の活動にとどまっている。	○生徒会活動や部活動を軸により生徒が主体的に取り組めるような活動を模索する
		④校種間連携	・異年齢間の交流	・保・幼・小と連携した取組ができたか	B		●小学校とは、年３回の連絡会をもち、小中連携した取組を展開できた。また、小学６年生への入学前の学校見学会を実施した。幼稚園・保育所との連携は２年生の職場体験学習にとどまった。	○幼稚園・保育所との連携の強化、高等学校とのさらなる連携に努める。
			・高等学校との連携	・高等学校と連携した取組が継続・発展できたか	A		●榛生昇陽高等学校と合同で榛原クリーン作戦を２回（夏、冬）展開できた。	○年度当初に計画を立案し、生徒や地域、保護者に広く参加を呼びかける。
		⑤学校評議員の活用	・学校評議委員会の開催	・学校評議委員会を定期的に開催できたか	B		●学期１回の開催はできなかったが、年２回開催することができた。	○学校の情報を評議員に発信する方法について検討する。
	(5)教育環境整備	①施設設備の有効活用	・空き教室の利用	・空き教室を学習活動に活用することができたか	A	B	●各学年少人数授業や、生徒会等で有効に活用している。	○耐震化工事も念頭におき、空き教室の利用は次年度以降に検討する。
			・学校施設の有効活用	・学校の施設を授業以外でも活用することができたか（目的外使用）	A		●地域スポーツ団体による夜間の体育館使用が進んだ。	
		②教材・教具の整備	・教材・教具の整備・活用状況	・必要な教材・教具を計画的に整備できたか	B		●計画に基づき、予算の範囲内で順次進めている。	
			・図書・副読本等の整備・活用状況	・図書室の本や副読本（なかま、道徳）を活用したか	B		●図書室の開室についてはできたが、副読本の活用は十分とはいえない。	○図書室の利用による読書活動の充実に努める。

様式３

平成２６年度　学校関係者評価書

学校名	宇陀市立榛原中学校
評価者名	松本守正　、　吉村順子　、　稗田雄三　、　藤本和之　、辻本和子
実施日	平成２７年　３月９日

大項目	中項目	達成状況・取組状況について	取組の適切さについて	改善方策について
Ⅰ教育活動に関するもの	挨拶の日常化と清掃活動の習慣化	●生徒の挨拶については、生徒のアンケート調査からも自主性が見られ、成果が感じられる。 ●清掃活動については、熱心にほぼ毎日取り組んでいることがうかがわれる。	●生徒と教師がともに取り組むことで、成果を上げているように感じられる。	●今後は、家庭や地域も巻き込んだ挨拶運動を展開してみては。
	基礎的基本的な学力の充実	●全国学力学習状況調査を、学校としてさらに分析し、学力向上の取組をさらに進めてほしい。	●応用能力を必要とするものについて、さらにきめ細かな指導が必要である。	●取り組みやすい教科から、グループワークを取り入れる等教授法の研究が必要ではないか。
	生徒会活動、部活動の活性化	●部活動については熱心に取り組んでいることが、アンケート結果からもうかがえる。	●榛原中学校の特色であるので、保護者においても満足度が高い。	●さらなる深化を望む。
	人権意識の育成	●実態に合った人権推進計画に基づき、人権教育を推進している。	●取り組んだ内容を実生活の中で生かせるようさらなる取組を期待する。	●道徳の教科科に向けての準備を。
Ⅱ学校経営に関するもの	組織運営	●適材適所の配置を行い、組織として機能している。	●昨年と人材が変わり、やや戸惑いもあるが、組織として機能している。	●次年度においても、効果的な学校経営ができるよう、教職員の職能開発に努める。
	危機管理	●危機管理意識の高揚に向け、専門家を招き研修に努めた。	●ＰＴＡや地域と協力し、交通安全の看板等を設置できたことは良かったのではないか。	●地域とともに避難訓練等を実施してみるのも良いのではないか。
	保健管理			
	保護者・地域との連携	●ホームページやメール配信等で保護者や、地域に情報発信ができている。	●地域連携をさらに進めてもらいたい。	●ホームページをもっとオープンにしてはどうか。 ●オープンスクールをもっと広報してはどうか。
	教育環境整備			

【その他学校に対する意見】　●オープンスクールに多くの参加を促すためのさらなる工夫を期待したい。